

# WEST 政策発表会 (大阪府政策提言ツアー) 学生レポート

訪問日時: 2018年2月14日 午後3時から5時45分

参加者: WEST 大会優秀賞受賞チームほか(大阪大学・立命館大学)

WESTで優秀賞に選ばれたチームが、実際の政策を策定する担当者の前で政策を提案する場として、大阪府の協力の下で、大阪府への政策提言ツアーを実施した。



## WEST 論文研究政策発表会(大学生との意見交換会)次第

日 時:平成 30 年 2 月 14 日(水)

場 所:府庁本館特別会議室(大)

○開会あいさつ (15:00)

○第1部 発表論文に関する意見交換会 (15:05～15:35)

・大阪大学・赤井研究室・中村班 「道の駅の有効な活用を目指して」

※プレゼンテーション 20 分、意見交換 10 分

<休憩> (15:35～15:40)

○第2部 受賞論文に関する意見交換会 (15:40～17:45)

【最優秀賞受賞】

・大阪大学・赤井研究室・唐井班 「集落営農法人化による農地保全を目指して」

【優秀賞受賞】

・立命館大学・島田研究室・新熊班

「電力システム改革と再生可能エネルギー普及は両立するか

～ダイナミックプライシングと電力卸取引市場の活用に着目して～」

<休憩> (17:00～17:05)

【優秀賞受賞】

・大阪大学・赤井研究室・佐伯班 「中学校教諭の多忙化解消に向けて」

※プレゼンテーション 20 分、意見交換 20 分

○ 閉 会 (17:45)

大阪府への政策提言ツアーは、政策企画部企画室の協力を得て実施するもので、今回で4度目となる。本年度は、優秀賞を得たチームを含む4チームが参加し、政策企画部や副知事に加え、政策提言分野を所管する、大阪府の担当部局の政策立案担当者前で、政策提言を行った。時間をかけて、課題、解決のための政策について、説得性を高めてきただけあって、政策立案担当者とも議論が出来るレベルになっていたと思われる。ただ、実施にあたり、見えていない利害関係者への配慮など、政策実施に関わる課題において新たな視点も指摘していただき、学生にとって、今後社会において社会問題を議論する準備としての良い経験になったと思われる。実施後のアンケートでは、参加学生ほぼ全員が満足との回答をした。今後に向けては、アンケートにもあるが、分析時に悩んだ点に関して、学生から政策担当者に質問する時間や、政策担当者の政策の悩みを聞く時間も設けるのも今後良いかもしれない。以下に、学生の感想をまとめる。

文責 赤井伸郎

### **今回の大阪府への政策提言ツアーでの発表・議論から感じたこと、学んだこと**

1. 実務家の方の前で発表する機会は、一年間の集大成でありそれを目標にし論文執筆を行えるという視点からも有意義だと考えます。論文大会では論の流れ、実証分析の議論が多いですが、大阪府の実例も踏まえアドバイスを頂けた事が印象的でした。また、自分の研究室以外の方の発表を聞くことが出来たことから有意義な時間であったと感じました。
2. 大阪府提言ツアーでは、実務で活躍される方の声を聞くことができ勉強になった。中には厳しいご指摘もあったが、政策を現場で実践していくにあたり、どのような点が重要であるのか現場で働かれる方にしか分からない視点を見聞きすることができ、来年度の論文執筆に活かしていきたいと思った。副知事お二人にも発表を聞いていただくことができ、論文執筆に向けたモチベーションにもなった。
3. "実際に政策立案を行っている行政の方に対して提言を行い、その反応を見ることで政策の実現可能性などについて把握することができたのがとてもよかった。発表会の結果にとどまらず、このような場を設けていただくことは、論文執筆の大きな動機につながると改めて意識することができた。"
4. 質問を受けるとき、やはり視点が違って、政策を一つ作るために、相当の観点到注意を払わなければならないのだと感じた。ただ、もっと根本的なところに目を向けるべきではないのかという趣旨の質問が見受けられたが、それは政策提言の発表に対してするべき質問ではないように思う。来年も同じように提言ができるように、論文にしっかり取り組もうと思う
5. 実際に政策に携わっておられる方々に発表するのは、大会での発表とはまた違った緊張感だった。どのような視点で私たちの提言を見ておられるのかといったことや、どのような点が評価されるのかといったことに意識を向け、今後の論文執筆活動に生かしたいと思った。また、論文執筆で政策提言の実現可能性は、国民がその政策が自分の生活にどのような影響をもたらすのかということと、そこから生まれる感情が大きく関係してくるということがわかったので、とても有意義だった。
6. 今回の提言ツアーでは府庁での発表から夜の交流会に至るまで、府の方々から政策提言内容の実務との乖離を指摘するご意見をいただいたり、さらには現状分析の妥当性をも検討しなおす必要があるのではないかと思えるような実状をご教授いただき、執筆中にはこのような機会がなかったことから、大変貴重

な活動であった。また論文を書き、発表するだけで終わらないためにも、このように、外部の方から評価していただく機会は有意義であると感じた。

7. ISFJ や WEST では、分析の精度や論文の書き方などの観点からも、自分たちの研究を評価してもらいました。今回の提言ツアーは、実際の現場に関わっている方々からの意見を聞くことができ、そうした大会とは違う観点からの意見を聞くことができました。やはり、外部指導員などに関してはコストなどが大きな課題として存在するのだなと実感しました。
8. 自分たちが考えた政策提言を、実際に行政を担っている役人の方々に発表できたということでも貴重な時間であったと思う。役人の方からの意見は実際の現場を知らない我々からすれば、大変参考になるものであり、自分たちが気づけなかった着眼点などにも気づくことができ、来年の論文を執筆する上で大きなヒントを得られた気がする。大阪の副知事の両名にもご参加いただいたことはこの政策提言ツアーが単なる学習発表会にとどまるものではないことを示し、自分たちが行ってきたことの確かな手触りを感じた瞬間だった。
9. 副知事の前でプレゼンを行い、実際に行政に携わっている方に、専門的な知見からコメントをいただく機会があつて貴重な経験になりました。職員の方の質問をお聞きしながら、実際に行政で政策を行っていくうえで、どういうところを気にされているのかや、今どういう点に関心をもって進めていこうとされているのかが分かりました。自分たちで提言した内容を客観的に評価していただける、という点でもとても意義があると思います。
10. 副知事をはじめ、様々な分野で働いていらっしゃる府職員の皆様と意見交換をさせていただき、行政として政策を行う上で必要な視点を学ばせていただいたと感じております。今後は、「実現性」というものをより意識し、問題の背景にある様々な原因に対して、網羅的にアプローチしていけるような政策提言を目指し、研究を進めていきたいと思ひます。

## **交流会で学んだこと**

1. 不参加
2. 大阪府職員の方がフレンドリーに接して下さり、大阪府政から就職に関してまで幅広くお話をすることができた。自分の論文の範囲だけでなく、現在大阪府政で議論になっている課題やテーマについて、ざっくばらんに意見を交えることができ楽しかった。
3. 発表後の意見交換ではできなかった意見交換を、より親密に話しながらできたのがよかった。論文執筆を行った3回生は、是非とも参加すべきと思ひた。
4. 普段、自分よりも上の世代の人と話す機会はほとんどないため、新鮮だった。大阪府で働いている人が、いろいろな理由でその職場を選んでいて、その話を聞くのが面白かった。
5. 提言発表とは違った和やかな雰囲気でも様々なお話をすることができ、貴重な経験になった。大阪府の方々から、論文や大学生活のことでもいろいろなアドバイスをいただくことができた。
6. 執筆した論文に関して、特に政策提言について、実務に基づいて、自分が知らなかったり、あまり着目していなかった視点から評価していただいた。その中で、貴重なご意見やアドバイスをいただき、論文を執筆する上での情報収集や現状分析の大切さを改めて学んだ。

7. 夜の交流会は本当に楽しかったです。府庁で働く方々とたくさん話をさせてもらって、1 番感じたことは、みなさんが、自分の仕事を誇りに思っているということでした。みなさん、楽しそうに自分の仕事について話してくださって、こんな風に自分の仕事を話せるのって、素敵だなと思いました。
8. 不参加
9. 不参加
10. 行政としてはもちろんのこと、職員の皆様一人一人の考えをお伺いさせていただけたことで、今後の研究に活かせるような意見を多く得られたのではないかと考えております。また、研究を進めていくうえで、行政の方と意見交換ができるという情報をいただいたので、ぜひ後輩にも伝えていきたいと思ひます。

### **今後、大阪府提言ツアーをよりよくするためのアイデア**

1. 実務家の方と議論出来る貴重な機会にも拘わらず学生からの質問時間が取られていない事が勿体無く感じました。特に政策提言手法や根拠となるテーマの提示方法など、現場ではどのようなプロセスを経て行われているのか伺える時間があれば更に良い発表の場になると感じました。
2. より多くの大学が参加することが必要だと思ひ。優秀賞以上の論文だけだと遠方などの理由で参加できる学校が限られてしまうため、参加の幅を広げると参加班が増えるのではないかと思ひ。
3. 既に十分だと思ひます。
4. 主に職員側からは質問という形でコメントが来たが、もっと全体的に講評というか、コメントがもらえるほうが良いと思ひ。そのほかについては、特にコメントすべきことがありません。
5. 今回のような形で、今後も政策を実際に提言できる機会があるということだけで、十分よい経験だった。ただ、大阪府には集落営農が少なく、事例もあまりなかったため、集落営農が盛んな地域でも提言できればよかったと思ひ。
6. 学生が府の方のご質問、ご意見に対して応答するだけでなく、学生側から府の方に対して逆質問できる時間があれば尚良いと思ひ。また細かいことではあるが、夜の交流会の前に府の方から簡単に自己紹介をいただくと、学生側からもアプローチしやすくなると感じた。
7. WEST の受賞班と受賞してない班で、質疑応答などの時間は変えないでほしいと思ひます。全ての研究が本当に意味のあるものだし、そこで差別化は図らなくてもいいんじゃないのかなと思ひました。
8. 夜の交流会に不参加だったため何とも言えないが、発表が WEST と同じような一方的なものだった感があるので、もう少し、学生からどういうところを改善し、それをどう繋げていくかというようなことを質問できる機会があればいいなと思ひた。
9. 今のままでいいと思ひますが、大勢対大勢の質疑応答だけでなく、グループに分かれて意見交換を行うことができてもいいのかなと思ひました。
10. 大阪府政策提言ツアーに参加するチームが増えれば、より有意義なツアーになるのではないかと思ひます。可能ならば、本番発表会前の時点で政策提言ツアーの日程を決め、優秀賞受賞チームには参加してもらう旨を参加者に前もって伝えられればいいのではないかと思ひます。

### **今後、価値ある活動として、どのような発表・議論の場があれば。**

1. 他ゼミ(特に ISFJ、WEST で優秀な論文を執筆しているゼミ)の論文執筆方法や着眼点について学ぶ機会が必要ではないかと考えました。1 月等のゼミの中で他ゼミの優秀論文について議論をする事や、合同ゼミ開催などがあれば良いかと思えます。
2. 大阪府や省庁への発表は継続したい。これら以外にも、各班の提言にあったところへ提言できたら面白いと思う。特に、農業と道の駅は都道府県ごとでの違いが大きいため、それぞれの提言にあったところに発表することでより活発な議論ができると思う。
3. 大阪、東京で 1 回ずつ発表の機会があるため、十分だと思えます。これを目的に執筆活動に励んでほしいです。
4. 質問をされたときに、なにかしら対立する論点があると思うが、司会の人があるところを拾い上げて、どんどん対立させていくと議論が深まっていく、面白いと思う。対立を避けずに議論することが大切だと思う。
5. 今回のような政策提言ツアーが今後も引き続き開催されることを望みます。
6. 学生としては、実際の現場でどのようなプロセス、熟慮を経て政策が形成されるのか大変興味深いですが、そうした情報は当事者からしか得られないと感じる。今後、政策立案に関して、行政の方からプレゼンなどをしていただいたり、それらをもとに意見交換できる場を希望する。
7. この大阪府での提言ツアーはぜひ続けてもらいたいなと思えます。また実際に職場で働く人にも聞いてもらえたら嬉しいなと思えます。例えば、教育なら実際の教師の方、農業なら実際の農家の方といった感じですか。
8. 今回の提言ツアーのように、実際に働いている人に接触できる機会というのはとても大事なものだということを実感した。よって行政の方なり、企業の方なりに積極的に関わり、自分たちの学びが閉鎖的なものにならないように、議論を深められる機会の場を希望する。
9. 行政の方やステークホルダーの方にお話を聞くこととはかなりずれますが、実際の政策にするなら予算が必要になると思いますが、それがいくらくらいになるのかや、それが議会で承認されるか、など考えてみたいですね。
10. いろいろな大学内で、WEST 論文研究発表会に参加していない学生に向けて、発表するような機会があっても良いのではないかと思います。WEST 論文研究発表会に参加する学生が増えるよう、認知を高めたいと思います。



